

関西哲学会第73回大会プログラム

A 個人研究発表

1 現代日本における学問誕生の契機

船木みあさ（京都大学）
司会 中畑正志（京都大学）

2 ポリテイア篇におけるプラトンの問答法による教育

東敏徳（幼児教育専門学校・元）
司会 金山弥平（名古屋大学）

3 スピノザの存在論における二つの時間システム

柴田健志（鹿児島大学）
司会 松田克進（龍谷大学）

4 ヒューム因果論における因果的規範性の起源としての生存的本能

青木眞澄（京都大学）
司会 戸田剛文（京都大学）

5 「真なる哲学」と謙虚さの徳——ヒュームの哲学への復帰の徳認識論的解釈

小泉雄紀（京都大学）
司会 上枝美典（慶應義塾大学）

6 ヒュームにおいて宗教的信念はいかなる意味で自然なのか？

西内亮平（京都府医師会看護専門学校）
司会 久米暁（関西学院大学）

7 カント社交論における遊びとしての談話と議論

高木裕貴（京都大学）
司会 中川明才（同志社大学）

8 『純粋理性の批判』における理念の仮象とその有用性について

三輪秦之（大阪大学）
司会 須藤訓任（大阪大学）

9 目的概念としての「目的それ自体」

八木緑（関西学院大学）
司会 品川哲彦（関西大学）

10 動くものを掴む——体験に意味・意義を与えること

上島洋一郎（関西大学）
司会 田端信廣（同志社大学）

11 ベルクソン哲学における自由と義務

渡辺洋平（関西大学）
司会 佐藤義之（京都大学）

12 絶対平和を目指す弁証法的行為の方位

川島核三（津山工業高等専門学校）
司会 井上克人（関西大学）

13 初期ハイデガーにおける哲学理念の把握根拠
——そのモデルニテート、ないしは今日性について

樽田勇樹（京都大学）
司会 安部浩（京都大学）

14 未完成な『スピノザと表現の問題』：不十分な表現的生成の理論

佐々木晃也（大阪大学）
司会 松田毅（神戸大学）

15 ミリカンによるドレツキ批判は成功しているか
——「意味の自然化」プロジェクトの観点から

榎本啄杜（関西大学）
司会 中山康雄（大阪大学）

B 共同討議

「時間とプロセス——分析哲学とベルクソン哲学との対話」

中山康雄（大阪大学）
三宅岳史（香川大学）

C 総会 （別紙の議案書を御覧ください。）